

住人十色

第
106
回



◎3月23日は、2人が主役のスプリングコンサートの日。兄弟で自慢のドラム演奏を披露するなど、石畳小で最後の思い出をつくった（前列左から2人目が功希くん、3番目が海人くん）

兄弟で1年間、石畳小に山村留学—— あの夏を、この春を、ずっと忘れない

小林 ^{こうき} 功希くん(11)、^{かいと} 海人くん(9) = 石畳8 =

3月23日。お別れの日——。石畳小学校の体育館に響く『ふるさと』の合唱の中に、1年間の山村留学を終えた、小林功希くんと海人くんの姿があります。

「岡山県の小学校に通う兄弟に、小さな学校の良さを経験させたかった」と話すのは、母親の千春さん。新築を機に子どもを実家に預け、自身も通った石畳小へ山村留学させることを決めました。

功希くんは1年間を振り返り「行事が多くて大変だったけれど、できることが増えた」と胸を張ります。「水泳大会の練習を頑張って泳げるようになったし、一輪車も乗れるし——と数え上げると切りがありません。海人くんも「地域のおじさん・おばさんとも友だちになった」と笑います。繁榊^{あつし}篤校長先生は「人数が少ないので、活躍の場が多い。その分、責任もあるが、自信になったと思う。新しい風で互いの子どもたちが成長した」と目を細めます。千春さんも「ナタや電動ドリルで竹細工を作る姿がたくましい」と、その成長ぶりに驚きます。

最後に2人は「石畳で過ごした1年間は、僕たちにとって大事な宝物。石畳の友だちと先生、地域の皆さんのことは絶対に忘れない」と大きく手を振りました。

編集 幸記

▽春は出会いと別れの季節。自分もそろそろ異動かなと思っていましたが、広報担当6年目の春に突入しました。特集で神楽人の皆さんに出会えたように、また取材でたくさんの方に出会えることが楽しみです(裕)

▽広報係になって1年。周りに「編集幸記を欠かさず読むようになった」という人が増えました。広報の自身はもちろんのこと、編集幸記の反響も担当者にとってはうれしいものです。二年目も「広報うちこ」と(航)のファン増員を狙います(航)

町内無線放送が聞き取れなかった場合はお電話ください。

通話料無料の
フリーダイヤル
☎0120(44)2130

